

# 「銃後」における民間人の戦争を検証する

# 第一次世界大戦と民間人

「武器を持たない兵士」の出現と戦後社会への影響

鍋谷郁太郎 [編]

「総力戦」といわれる第一次世界大戦を「武器を持たない兵士」としての民間人が、どの様に受け止め、如何に感じ、そして生き抜いていったのか？

ドイツ史、フランス史、イタリア史、ロシア史、ハンガリー史、そして日本史の立場からの研究成果をまとめた論集。



定価 4,950 円 (10% 税込)  
〔本体 4,500 円〕

2022年3月発行、334頁  
A5判・上製・カバー装  
ISBN978-4-7646-0354-7

## 目次

序論 — 「総力戦」と民間人 —

鍋谷郁太郎

### 第一部 第一次世界大戦期

第一章 第一次世界大戦の空襲とドイツの民間防空

空 — 家郷 (Heimat) と防衛 (Schutz) との掛け合い、

そして「武器を持たない兵士」の出現 — 柳原 伸洋

第二章 ドイツ民衆は第一次世界大戦を「耐え抜い

(durchhalten) たのか — 「戦争文化 (culture

de guerre)」「耐え抜く (durchhalten)」「耐える

(aushalten)」についての試論 —

鍋谷郁太郎

第三章 第一次世界大戦における兵士の傷病と医師

— ドイツの事例から — 梅原 秀元

第四章 戦場となったマズーレン — 住民の戦争体験

と「タンネンベルク」の相克 — 川手 圭一

第五章 第一次世界大戦時イタリアの軍服製造と女性労働

勝田 由美

### 第二部 戦後期

第六章 ソヴィエト・ロシアにおける「人民の武装」

— 全般的軍事教練と特別任命部隊 — 池田 嘉郎

第七章 「境界地域」の創出と暴力の独占

— ブルゲンラント (西ハンガリー) における「国民自決」(一九一八—一九二二年) — 姉川 雄大

第八章 ドイツ義勇軍経験とナチズム運動

— ヴァイマル中期における「独立ナチ党」の

結成と解体をめぐって — 今井 宏昌

第九章 日本陸軍と国民・社会との協働

— 昭和初年の防空演習への道のり — 黒沢 文貴

第十章 映画の中の世界大戦

— 戦争文化と「適応」をめぐって — 剣持 久木

(ご注文・お問い合わせ)

錦正社

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 544-6

電話 03(5261)2891 FAX03(5261)2892 URL <https://kinseisha.jp/>



書店様番線	注文数	第一次世界大戦と民間人	
	冊	定価：4,950 円 (税込) [本体：4,500 円] ISBN978-4-7646-0354-7	
	お名前		
	〒 ご住所		
		お電話	

注文書